

分析展 2011/科学機器展 2011 合同展
—産業復興のマザーツール展—

この度の東日本大震災において被害を受けられたみなさまに心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々にご遺族に衷心よりお悔やみを申し上げます。

社団法人 日本分析機器工業会(〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-10-1 電話 03-3292-0642、会長 堀場 厚 (株)堀場製作所 代表取締役会長兼社長)と日本科学機器団体連合会(〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-8-5 電話 03-3661-5131 会長 矢澤英人 (株)ダルトン 代表取締役社長)が主催する分析展 2011/科学機器展 2011 合同展は、9月7日から幕張メッセにて開催されますが、その概要が明らかになりましたのでご案内いたします。

今年のキャッチフレーズは「来て・見て・わかる 確かな技術」。会期は、9月7日(水)から9月9日(金)の3日間で、現在の申し込み状況によれば出展社約363社、小間数約1226小間という規模で、幕張メッセの5・6・7・8の4ホールを使用しての開催となります。

会期が残暑厳しい9月初旬と電力需要の最も高い時期にあたっているため、主催者は会場の幕張メッセと協力して節電に努めると共に、出展社の方々と連携して真のエコ展示会を目指します。

分析・理化学機器・技術は、あらゆる産業のマザーツールとしてこれまでも世界の科学技術の発展に貢献してまいりました。この度の震災から産業・経済が復興するためにも欠くことのできない製品・技術であります。このような観点から本年もこの合同展示会を開催することを決定いたしました。本合同展は、分析機器・技術に加えて理化学機器、及びその関連技術・製品が一堂に会した、文字通り「分析・計測の入口から出口まで」の最新情報が展示された総合展示会であり、米国の Pittcon 展、欧州の Analytica 展とならぶ世界の3大分析・計測関連総合展として不動の地位を築いています。

○分析展 2011/科学機器展 2011 の大きな特長は、機器展示に加えて最新技術情報の発表を行っている点です。出展者が行う新技術説明会は80社・機関308テーマと昨年実績を上回っており、国際会議場の全館を使用しての学術コンファレンスも JAIMA が主催するものに加えて、日本化学会、応用物理学会などの学術団体が主催するセッションが開催されます。また、昨年に引き続き米国 Pittcon 委員会主催の U.S. Symposium と日韓セミナーも開催される予定です。会場内では理科教育フォーラムや科学機器入門講座も開催されます。さらに毎回 300 名近く一般の方々が参加され、ご好評をいただいているサイエンスセミナーも例年通り『科学的な話題を一般の方々にも判り易く』を合言葉に二つのテーマ「南極探査とオーロラ」「深海探査船・ちきゅうと海洋探査」で開催します。

○大震災後の厳しい環境下ですが、産業・経済復興を願いつつ来場者の動員をはかり、3万人の来場者数を目指します。東京都心からの来場者の利便性のため、毎年好評の幕張本郷駅、海浜幕張駅からのシャトルバスの増便、さらに今回はつくば、鹿島地域からの直行バス運行に加え東京駅からの直行バスの新設も検討しています。

○分析展 2011/科学機器展 2011 は、分析・計測に関するアジア最大規模の展示会であり、最新の製品情報のみならず、最先端の学術的、技術的な情報も提示される世界有数の総合展です。大震災後の産業・経済復興を目指し、主催者として、出展企業にも来場者にもご満足いただけるように努力してまいります。

【お問い合わせ先】

- (社)日本分析機器工業会内合同展事務局 事務局長 濱崎(はまざき)/小川(おがわ)
電話(03)3292-0642 までご遠慮なくお問い合わせください。